

あげて一二週間程も其を以て遊ぶ事を禁ずる様に致すが宜しう御座います。

●私は一日に二度同じ事を云はねばならぬ事が御座いますと其子は其夜少し早く寝なければならぬことに致して居ります是は健康上に害のない善い方法と存じますから皆様に御奨め致します。

### 實驗上の育兒法(ついで)

瀬川昌耆君述

鷺口瘡俗にしろした

▲授乳後の注意 乳汁の飲ませ方がお解りになつたら序に乳汁を飲ませた跡の注意を述べて置かう生兒に乳汁を飲ませる時は先づ母親の乳首消毒を忘れてはならぬ、乳首を消毒したら乳汁を與へ、乳汁を飲み畢つたら丁寧に能く生兒の口内を清潔

に消毒しなければならぬ、斯く申せば定めし何と云ふ面倒な事だらう一々开んな手数の懸る事は出来ないと不平な方もあらうが、此の大切な消毒を實行せぬと往々生兒が鷺口瘡俗にしろしたとて恐るべき口内の病氣を發するのです、生兒が此様病体になつたら夫れこそ大變、ナカ／＼授乳の都度消毒の面倒位では濟まぬ、此時に至か「最初から消毒を怠らねば宜かつた、爾うすれば生兒にも斯んな不愜な思ひをさせずも宜かつたに」と後悔しても後の祭りとなりますよ

▲鷺口瘡は一種の黴菌 一体鷺口瘡は一種の黴菌病で夫れが蕃殖して口内から咽まで一面に白い厚い苔が出来て小兒は遂に乳を飲むことが出来なくなつて段々衰弱して仕舞ふのであるとして烈しくなると食道から遂には胃の腑までベタ一面に蔓

延する、斯うなつては醫藥の力も追はぬ事となつて仕舞う故、必ず安生なる策として前に述べる消毒を嚴重にせねばならぬ、此の病氣は殊に初生兒に多く、時には老人など勞衰性に陥ると斯る状態になり頗る苦惱することもあるものだが先づ是は多く小兒病と見做して居れば親達の誤ちは尠なく

▲發病の誘因物 此の恐ろしき細菌の發生する原因は、授乳の儘で置くと生兒の口腔に必ず幾分か乳汁が残つて居る、それが最も發病の誘因物となるので残留の乳汁は次第に分解され、不潔に傾いて來ると細菌は其處を的つて發生する、これが即ち爲口瘡と名の付くので斯んな順序に病勢が進むのである、處で授乳の際母親の乳首を消毒し、又授乳後生兒の口内も嚴重に消毒して置けば不潔を醸す憂ひもなく毎時も健康なる口内粘、膜

には發生する事が出来ない、手敷を懸けたり、面倒を能くした効顯は此の通り靦面に現はれ、聞くも忌はしきしるした」扱は少しも知らずに恙なく發育するのである

▲消毒の方法 併し幾ら消毒をお勧めしても其の方法を知らねば實行が出来まい、此の方法は勿論素人に出來る雜作ない事です、重曹は何處の藥種屋にもある價の廉い藥品で誰も御存じであらうが之れを十倍位に水に溶かして筆へ含まして口内に塗布するか、又は其の中へガーゼか又は木綿の布を浸し、重曹水を充分に含ませ、其の布を母親の右の食指へ纏て、生兒の舌から總て口腔を丁寧に拭いてやる、一度で取り切れずば二度も三度も拭ふが可い、爾うすれば残留せる乳滓も奇麗に拭取れ藥力のお蔭で跡の不潔になる憂ひもないから驚

口瘡も出来ないのです、之れに使用する薬はアルカリ性の物が可いので重曹が無くば硼砂を薄く水に溶解し、是で前の方法にやらば可い、若し一旦鷺口瘡が発生したならば矢張り重曹水でも硼砂水でもよいから度々其處に塗りつけて拭き取るやうにするがよい、それでも口内に附着して居るやうなら今度は三百倍位なカマンガン酸加里水でお試しみなさい、是れなら清潔になる筈だが一つは拭き方にも熟練する事が肝腎であります

後の入浴と臍帯

▲百日間は入浴せしめよ 初湯の濟んだ其の翌日より決して入浴を缺いてはならぬ、生後發育上入浴は頗る關係の深いもので母親か又は保育者の手が充分ある家庭では凡そ一ヶ年間位之れを實行する事が小兒の爲め能き衛生法である、左もなく

ば切めて生後百日間は必ず勤めて入浴させるやうに仕たい諺に「小兒は湯を浴はせる度に肥る」と云ふのも入浴の必要を説明されたものです、斯く入浴の大切なる理由は小兒は皮膚より脂肪の分泌する事が繁く之れを奇麗に洗落さぬと不潔を醸して皮膚へ濕疹が出来る

▲頭髮を清潔にせよ 殊に股間、腋窩、襟首等は脂肪分泌の爲めに毎日注意して丁寧に洗つて、

拭いて能く乾燥やらにしないと腐爛を生じて兎角生兒の機嫌の悪いもの、腐爛てから驚いて手當をしても生兒には夫れ丈け不惑な思ひをさせる故、斯うならぬ前に注意を致すが可い、夫れと今一つ頭髮の注意であるが、入浴の都度石鹼で洗ひ清潔にしなければならぬ、頭部は殊に分泌の繁き故萬一不潔の儘に委し置かば夫れへ塵埃と分泌の脂

脂肪と一ツに凝結り、遂には痂皮の如くなり、夫れは容易に清潔にならぬものです、世の親達は分泌の脂肪へ塵埃が附いたとき、之は容易に清潔にならぬから除去するには生兒が痛いだらうから不惑だ」と姑息の洗ひ方をして置くと其處が甚しき痂皮となつて益々夫れが固着し、何時かソコへ濕疹が發生して段々蕃殖する、頭部に濕疹のある生兒等も一ツは頭髮を清潔に石鹼で洗う事を怠つた爲めに出來たものもあるのです、此邊の不注意は母親の手落ではありませぬか

▲臍帯の大切なる次第 臍帯の處置は産婆の取扱うべきものであるが、若し此の方法に過誤があつたら生兒の生命に危険を及ぼす事往々あるのです「臍の病ひは危険なり」とは初生兒のため忽に出來ぬ事と心得ねばならぬ、臍帯の落ちる時は跡へ

傷が出来るが生兒は夫れが爲めシクシク泣いて機嫌が悪いものです、テ跡へ出來た傷は全く普通の傷と同じきものなれば傷として取扱はなければならぬ、故に其の傷所へ不潔な手や又は不潔なる布の觸れぬやうになさい、此の傷跡の大切なる事は云ふ迄も無く丹毒と云つて非常なる發熱をなして遂には仆れる恐ろしき病氣や、夫れから破傷風等を引起したらかよわき生兒は逆も此の病苦に打勝つことは出來ず憐れにも生命を縮めるやうな事になるのです、其他傷跡から出血するのも宜しくないので、臍帯が落ちたら深く周密なる注意をなさねばならぬが其の處置法として實驗上の説明を次ぎに掲げて御參考に供しやう

